

学習英和辞典における語法注記について

On Improving Usage-Notes in Learner's English-Japanese Dictionaries

長谷川 ミサ子*
Misako Hasegawa

本稿は、内容的には、長谷川 (1990), 長谷川 (1991), 長谷川 (1992) および長谷川 (1994) の続編をなすものである。本稿執筆の趣旨も前回と同様であり、出典や提示の様式など、いずれも、長谷川 (1994) を踏襲している。すなわち、項目の提示は、主要語のアルファベット順とし、今回は、ここに収録した材料は、ほとんどすべて、Michael Swan, *Practical English Usage* (1988), Oxford [以下引用例においてはSと略記。数字はページではなく、sectionを示す。] に含まれているものである。

上記紀要4編におけるのと同様、本編における内容も、語法注記が中心となっている。語法注記に関しては、現行各種学習英和辞典においても、かなりの注意が払われているが、現行学習英和辞典において、新しく、そして、有益な情報を盛り込みうるのは、依然としてこの語法注記という分野においてであると考えられるからである。

about

be about to

I'm not about to pay 50 dollars for a dress like that. (あんな着物に50ドル出すなんてごめんだわ。)

[▶ 否定の be about to は(米)では、「気がない」ことを表す。] S3

actually

“Nice to meet you again, John.”

“Actually, my name's Andy.” (「やあ、また会えてうれしいね、ジョン」「うん、でも、ぼくの名はアンディなんだよ」)

[▶ actually は相手の言い間違いを訂正するとき用いる。] S9

“What has become of my car?” “Well, actually, I'm terribly sorry, I'm afraid I had a crash.” (「ぼくの車どうなった？」「実は、まことに申し訳ないことながら、ぶっつけてしまったんだ」)

[▶ actually は、おそろおそろ言い訳をするときの出だしに用いられる。] S9

afraid

Are you afraid of the dark? (暗やみがこわいの?)

[▶ fear を用いた Do you fear the dark? の形は、特に会話ではあまり用いられない。] S28

I'm afraid ... (... じゃあないかしら)

[▶ 強めるときは、*I'm very afraid.ではなく、I'm very much afraid. の形を用いる。] S28

I'm afraid

▶ 「断わり」, 「悪い知らせ」などの折りに用いられる。I'm afraid I can't help you. 「すいませんが, お手伝いできかねます」, I'm afraid your wife had an accident. 「お気の毒ですが, 奥さんが事故にあわれたようです」また, 具合の悪いことを言いだす際の前置きとして用いられる。I'm afraid I forgot to buy the stamps. 「すいません, 切手を買うのを忘れました」。 S28,172

after

I'll phone you after I arrive. (着いたらお電話しましょう。)

[▶ この場合, * after I shall arrive の形は用いない。] S29

after that (それから, それですんだら)

[▶ この意味では after を用いることはできない。after には副詞の用法がないからである。then や afterwards ならよい。] S29

ago

His father died three years ago. (彼の父は3年前に亡くなった。)

[▶ ago は現在を起点とする場合に用いる。過去を起点とする場合には, before を用いる。His father was ill for three years before he died。] S32

all

I'll give you all you want. (欲しいものは何でもあげますよ。)

[▶ This is all that I've got. のような場合は「私が持っているのは(わずかに)これだけだ」という意味になるので注意を要する。] S37

after all

▶ 「最後に」, 「すべてが終わったあとで」の意味はない。1) 「上で述べたことにもかわららず」, 「予期に反して」, 「やはり」。I'm sorry. I can't come after all. 「申し訳ありませんが, やはりこられません」, I thought I was going to fail the exam, but I passed after all. 「私は試験に失敗す

るだろうと思っていた。が, 結局は合格した」。これらの場合, after all は文末にくる。2) 「だって」。It's not surprising you're tired. After all, you were up until three last night. 「君が疲れているのは当然だ。だって, ゆうべは3時まで起きていたんだもの」。相手が忘れそうになっていると思われる大事なことを思い出させるのに用いられ, 文頭に置かれる。 S30

allow

People are not allowed to smoke here. (ここは禁煙です。)

[▶ * It is not allowed to smoke here. の形はないので注意。] S40

almost

In that long dress she almost looks graceful. (あの長いドレスを着ると彼女もぐっと品よく見える。)

[▶ この場合, nearly を用いることはできない。] S41

alone

all alone

[▶ very much alone, very lonely はよいが, * very alone とは言わない。] S16

along

▶ along は road, river, corridor など細長いものについて用いる。journey, story など, 抽象度の高いものの場合には, all through the journey のように, through を用いる。 S42

also

John also plays the guitar. (ジョンはギターもひく。)

[▶ この場合, also は主語に続く部分にかかる。「ジョンは, ほかのものもやるがギターもひく」の意で, 「ほかにもギターをひく人がいるが, ジョンも」の意ではない。] S45

any

▶ 《副》疑問文, 否定文, 条件節では, 比較級および different の修飾語として用いら

れる。Are you any better today ? 「今日は少しはお加減よろしいですか」, I can't go any further. 「これ以上もう歩けないわ」, If I were any younger, I would fall in love with you. 「私がもう少しでも若ければ, あなたに恋をするところですが」, I don't think you look any different from how you did last year. 「昨年とちっとも変わらないように見えますよ」. S55

Have you got any butter ? (バターありますか。)

[▶ この any は, 不可算名詞, 複数可算名詞 (any apples) には付くが, 単数可算名詞には付かない。 * Have you got any apple ?] S562

anyhow

▶ これまで述べてきたことはむしろ, どうでもよく, これから述べるのが大事であるということを合図する表現. S172

anyway

▶ 「とにかく, いずれにせよ」. 上で述べてきたことはどうでもよいの意. S5

appear

She appears a very religious person. (彼女はとても信心深い人のようだ。)

[▶ 名詞が続く場合は, to be を補って, She appears to be a very religious person. とするのが普通.] S58

There appears that there is a misunderstanding. (なにか誤解があるようだ。)

[▶ It appears that there is a misunderstanding. と同義.] S58

around

▶ 《米》では round よりも around が多く用いられる. S61

as

as for

▶ 興味のないこと, 相手をきらっていることを示すことがある。I've invited Andy and Bob. As for Steven, I don't care if I never see him again in my life. 「私はアンディ

とボップを招いた。スティブンのやつは, 二度と顔も見たくないよ」. S172

as long as

I'll stay with you as long as there is a room free. (部屋が無料ならずと君と一緒にいるよ。)

[▶ ... as long as there will be a room free. とはならない.] S76

ask

▶ 「時間を警官に尋ねた」を * He asked the time to a policeman. とすることはできない。He asked a policeman the time. としなければならない。 S85

He asked for the manager. (彼は支配人を(電話などに)出してくれるように頼んだ。)

[▶ asked the manager は「支配人に尋ねた[頼んだ]」の意となる.] S85

asleep

▶ 「彼は眠っていますか」を表すのに, Is he sleeping ? よりも Is he asleep ? のほうが好まれる. S86

fast asleep

[▶ * very asleep とは言わない.] S16

at

He is at Cambridge. (彼はケンブリッジ大学に在学中だ。)

[▶ in Cambridge は「(旅行者などとして)ケンブリッジの町にいる」の意.] S88

at what time

At what time do you usually start work ? (何時に普通仕事を始めますか。)

[▶ このような文頭の at は省かれることが多い。What time ... ?] S87

awake

wide awake

[▶ * very awake とは言わない.] S16

be

be to

I was to have started work last night, but I changed my mind. (昨晚仕事を始め

ることになっていたが、気が変わった。)

[▶ 完了不定詞は計画されていたことが実現しなかったことを示す。] S97

You are to be your homework before you watch TV. (テレビを見る前に宿題しなくちゃだめよ。)

[▶ この be to は一種の命令を表す。] S97
Have you ever been to London? (あなたはロンドンに行ったことがありますか。)

[▶ ロンドンへ行き、もどってきている場合に用いる。He has gone to London. はロンドンに行ったか、向かっている(したがって、今ここにはいない)という場合に用いる。現在ロンドンにいる人に Have you been to London before? ということはできるが、
* Have you gone to London before? ということはできない。] S101

begin

She began to play the piano. (彼女はピアノをひき始めた。)

[▶ -ing との違いはほとんどないが、長い期間にわたることを表す場合には、-ing 形が好まれる。She began playing the piano when she was six. は「彼女は6才のとき、ピアノをひき始めた。」] S103

It was beginning to rain. (雨が降りはじめていた。)

[▶ * It was beginning raining. のように、-ing が進行形に続く形は避けられる。] S103

believe

“Is that Alex?” “I believe not(= I don't believe so.” 「あれ、アレックかい」「じゃないと思う)」 S558

belong

We belong together. (我々(の心)は一つだ。)

[▶ I don't really feel I belong here. は「ここは、どうも、私にはしっくりしない」というぎこちなさ、居心地の悪さを表すのに用いられる。] S105

book

a book on Africa

[▶ 専門家向けの場合は on, 一般読書人向けの場合は, a book about Africa の形が用いられる。] S2

bring

bring up

The child is badly brought up. (この子はしつけが悪いわねえ。)

[▶ 利己的で行儀の悪い育てられ方をしている場合に用いる。a well-educated person はよい大学などを出た人のこと。] S118

can

Can you repair my car tomorrow? (明日私の車修理してくれますか。)

[▶ 未来のことに関する現在の意志決定を述べる際には、be able to でなく can でよい。] S128

Accidents can happen. (事故って起こるものだ。)

[▶ この can は理論的可能性を示す。実際に現在生ずるという現実的可能性の場合に can を用いることはできない。したがって、Will you answer the phone? * It can be your mother. は不可で、ただし、疑問文、否定文では、can を現在の可能性について用いることができる。Who can it be? 「あれはいったいだれだろう」、It cannot be your mother. 「お母さんのはずがない」、It could [may, might] be your mother. などの形を用いなければならない。] S130

cannot help but do

I could not help but realize that something was wrong. (何かどこかおかしいという気がしてならなかった。)

[▶ cannot help -ing よりまれ、特に口語では用いられない。] S133

certain

You can't be certain (of) what's going. (何が起こるか分かりませんよ。)

[▶ この of は省略可能。] S490

close

▶ close は shut とは異なり、ゆっくりした漸次的動作について用いる。Flowers closing at night 「夜花びらを閉じる花」 比喩的な意味の場合には、close を用いる。They've closed [^{*} shut] the road for repairs. 「修理のためその道路は閉鎖された」, I want to close [^{*} shut] my bank account. 「私は銀行の口座を閉じたいと思う」. S139

continuous

▶ continuous と continual : continuous は、ただ「継続している」の意を表すが、continual には、「繰り返し生ずる迷惑な」の含意あることが多い。continuous fighting on the frontier 「前線における絶えまない戦闘」, continual interruptions 「しょっちゅう起こる中断」. S156

contrary

on the contrary

▶ A on the contrary ... は、A の反対が真であるという場合に用いる。A on the other hand B は、A も B も真であるというときに用いる。 S159

could

He was a terrific liar. He could make anybody believe him. (彼はものすごいそつきで、どんな人にも彼の言うことを本当だと思い込ませることができた。)

[▶ 過去における一般的な能力であるから could でよい。 * After six hours' climbing, we could reach the top of the mountain. のように一回限りの場合には、we succeed in climbing のような形を用いなければならない。] S128

When I lived at home, I could watch TV whenever I wanted to. (家にいたころ、テレビはいつでも好きなときに見ることができた。)

[▶ 過去における一般的な許可を示す。個別の場合には、I was allowed to see her yesterday evening. 「昨夕彼女に会うことを

許された」のような形を用いる。] S131

“Could I use your phone ?” “Yes, of course you can.” (「お電話お借りしてもよいかしら」 「ええ、どうぞ」)

[▶ この can の代わりに could を用いることはできない。] S131

When I got off the train, I could smell the sea. (列車を降りたら海のかおりがした。)

[▶ 感覚動詞の場合、could は過去のことを示す。] S129

You couldn't lend me a dollar, could you ? (1ドル貸してもらえないかなあ。)

[▶ couldn't を含む文に肯定付加疑問詞を付けた形は信頼を示す。] S515

dead

the dead (死者)

[▶ 常に複数の意味で用いられ、the dead man を意味することはない。] S14

dear

Dear Mr. Smith

[▶ この形で手紙を書き始めたら、結びは、Yours sincerely が普通。Yours truly は少しくだけた言い方になる。友人同士などの間では、Dear Tim のような形で始まり、Yours ever あるいは Love など終わる。] S361

depend

It depends (on) whether we've got enough money. (資金が十分にあるかどうかにかかっている。)

[▶ この on は省略可能。] S490

divide

He divided his time between teaching, writing and lecturing. (彼は自分の時間を授業と著述と講演とに分けていた。)

[▶ あとに数個の単数名詞が続く場合、前置詞は between をとる。] S50

do

do so

“Have you written that letter ?” “I will do so immediately.” (「あの手紙書き

ましたか」「すぐ書きます」]

[▶ do so は、あとに副詞が続くとき多く用いられる。] S181

I always eat peas with honey. My wife never does (*so). (私はいつも豆に、はちみつをかけて食べる。妻は決してそうしない。)

[▶ do so は、その主語と行為が既出のそれと同一である場合に限られる。] S181

"She lost her money." "I wasn't surprised if he did (*so). (「彼女、お金なくしたんだって」「としても、不思議はないね」)

[▶ like, remember, think, fall, lose などのような非意図的な意味を表す動詞の代わりに do so を用いることはない。] S181

doubt

no doubt

No doubt you'll be paying your rent in the near future, John. (部屋代じきに入れてくれますよね、ジョン。)

[▶ やんわりと人に何かさせようと頼むときに用いる。] S172

dream

I dreamt about you last night. (昨夜あなたの夢をみました。)

[▶ 不可能なことなどを夢想するという場合には、Sometimes I dream of running to a desert island. 「ときどき私は無人島へ脱出することを夢見る」。] S183

dress

The child is learning to dress himself. (その子どもは自分で着物を着る練習をしている。)

[▶ 大人が毎日行っている習慣的行為の場合、-self 形は、通例、省略される。We usually wash and dress and shave in the morning. 「我々はたいてい、朝、顔を洗い、服を着て、ひげをそる」。] S523

evening dress

▶ この場合の dress は不可算名詞である。

通例は可算名詞。She was a beautiful dress. 「彼女は美しいドレスを着ていた」。 S184

drunk

▶ drunk と drunken : 従来は、限定的用法の場合には drunken を用いていたが、現在では、限定用法・叙述用法のいずれにおいても drunk が用いられる。a drunk driver 「酔っぱらいドライバー」、Pam is drunk again. 「パムはまた酔っぱらっている」。 S186

during

My father was in hospital for six weeks during the summer. (父は夏に6週間入院していた。)

[▶ during はあることが「いつ」生じたかに言及し、for はそれがどれだけ「継続」したかを示す。] S187

each

▶ each other と one another : 一般的な人を対象としている場合には one another が好まれ、特定の人を対象としている場合には each other が好まれる。 S191

She sent them each a present. (彼女はめいめいにプレゼントを送った。)

[▶ each は間接的目的語のあとには置けるが、直接目的語のあとに置くことはできない。*She kissed them each。] S190

either

There were roses on either side of the door. (ドアの両側にはバラがあった。)

[▶ 名詞の前の either は限定詞であり、*the either side のようにいうことはできない。] S194

else

or else

You'd better stop hitting my little brother, or else ! (弟をなぐるのをやめたまえ。さもないと。)

[▶ or else は、特に子供が相手をおどすのに用いる決まり文句。] S200

frankly

▶ あとに、相手を批判し、たしなめることば

が続くことを合図する場合が多い。 S172

friendly

He spoke to me in a very friendly way.

(彼はとてもやさしく私に話しかけた。)

[▶ friendly には副詞としての用法はないので、*He spoke to me very friendly. とは言えない。] S12

had

had better

You had better hurry up. (急いだほうがいいと思いますよ。)

[▶ better は比較の意味を含まない。「急ぐべきである」といっているのみ。] S275

headache

I've got a headache. (私は頭が痛い。)

[▶ headache は通常の可算名詞であるから、a headache か headaches (I often get headaches. 「私はよく頭痛がする」) の形で用い、無冠詞では用いられない。*I have headache.] S6

honestly

▶ あとに、相手を批判し、たしなめることが続くことを合図する場合が多い。 S172

hope

I hope to spend a year in America after I leave school. (学校を出たら1年アメリカへ行きたいと思っている。)

[▶ 不定詞が続くと、よく確固とした希望や計画を表す。] S297

I hope she likes the flowers. (この花、彼女気に入ってくれるといいんだが。)

[▶ I hope のあとで用いられる現在形は未来の意味を表すことができる。she likes = she will like] S297

I hope she'll come. (彼女来るといいですね。)

[▶ 否定は *I don't hope she'll come. ではなく I hope she will not come. を用いる。cf. think] S297

how

How astonishing a sight ! (なんとびっ

くりするような光景でしょう。)

[▶ この形の構文は不定冠詞がないと用いることができない。*How pretty clothes she wears.] S18

How are you ? (ごきげんいかがですか。)

[▶ 《米》では、「初めまして」(How do you do ?) の代わりにしても用いられる。] S274

if

I wonder if [whether] she is happy. (彼女は幸せかしら。)

[▶ 前置詞のあとでは if は用いることができない。代わりに whether を用いる。I'm worried about whether she is happy.] S490

incidentally

▶ 既出の話題と関係のない話題を導入しようとする際に用いられる語。 S172

indeed

I was very pleased indeed to get your letter. (お手紙とてもうれしくいただきました。)

[▶ *I was pleased indeed to get your letter.] S318

Thank you very much indeed. (どうもありがとうございます。)

[▶ *Thank you indeed.] S318

just

I've just had a phone call from Mary. (今メアリーから電話があったところだ。)

[▶ 《英》用法。《米》では、I just had ... のように過去形を用いる。] S352

know

"You are late." "I know." (「遅刻だよ」「分かっている」)

[▶ 「そのことは分かっている」というとき、目的語を取らない。具体的なものが対象となっているときは、know it となる。"I read the latest novel by Mr. Green." "I know it." 「グリーン氏の最新作の小説を読んだよ」「それ知っているよ」、"Have some

chocolate.” “No, I don't like it.” 「チョコレートいかが」「いいえ、きらいなんです」を * “I don't like.” とすることはできない。]
S354,474

lend

We've been lent a cottage in the Alps for the summer. (夏の間アルプスの山小屋を貸してもらった。)

[▶ lend は受身形が可能であるが、反意語の borrow では不可能。] S114

let

His parents let him do what he liked. (両親は彼の好きなようにさせておいた。)

[▶ 受身形には、 * He was let to do ... の形ではなく、 He was allowed to do what he liked. の形を用いる。] S360

little

a nice little house (小さなすてきな家)

[▶ 叙述的な場合は small を用い、 The house is small. といい、 * The house is little. とはいわない。] S16

long

Have you been working here long ? (この職場、もう長いですか。)

[▶ 「長い間」の意で long を用いるのは、疑問文、否定文に、通例、限られる。肯定文では、for a long time を用いる。 I've been waiting for a long time for this opportunity. 「このチャンスのくるのをずっと待っていたんだ。] S366

for long

He didn't speak for long. (彼の話しは長くはかからなかった。)

[▶ He didn't speak for a long time. 「彼はなかなか口を開こうとしなかった(ずっとだまっていた)」の意。] S366

look

You look very tired. (とてもお疲れのようね。)

[▶ ほぼ同義の表現として、 You are looking very tired. の形も用いられる。] S367

look here

Look here! What are you doing with my camera ? (おい、ぼくのカメラに何しようとしてるんだ。)

[▶ look here は「そんなことする [いう] のはやめろ」という怒りを示す感投詞。]

S370

marry

Jim and Pan get married. (ジムとパムは結婚した。)

[▶ Jim and Pam married. とは、通例、言わない。] S372

matter

as a matter of fact

“Who was elected ? ” “Well, as a matter of fact, I was.” (「だれが選ばれたの?」「実はね、ぼくなんだよ」)

[▶ 相手がちょっとびっくりするようなことを言いだすときに用いる。] S82

no matter

I'll always love you, no matter what. (どんなことがあっても君を愛しているよ。)

[▶ ... no matter what happens の意。] S374

mean

I meant to have telephoned, but I forgot. (電話するつもりだったが忘れた。)

[▶ 完了不定詞は実現されなかった過去の行為を示す。] S319

might

He said, “I might come.” (「私はくるかもしれない」と彼は言った。)

[▶ 間接語法は、 He said that he might come. であって、 * He said that he might have come. ではない。] S538

nobody

Nobody phoned while I was out, did they ? (留守の間、電話はなかったね。)

[▶ nobody を受ける代名詞が they である点に注意。] S515

nothing

Nothing can stop us now, can it? (何も我々をとどめることはできないよね。)
 [▶ nothing を受ける代名詞が it である点に注意。] S515

often

I often fell in love when I was younger. (若いときにはよく恋をしたものだ。)
 [▶ often は異なる場面で生じたことに用いる。「昨日はスキーでよく転んだ」のように同じ場面のとき often を用いて, *I often fell yesterday when I was skiing. とすることはできない。代わりに several times のような表現を用いる。] S437

on

▶ 弱形はない。 S88

one

More than one person is going to lose his job. (職を失うに至るのは一人にとどまらない。)
 [▶ more than one ... は単数呼応。] S431

only

I met her only yesterday. She looks much better. (彼女には昨日会ったばかりです。大分よさそうでした。)
 [▶ yesterday のような過去を表す語とともに用いられると, only は「昨日より前の時ではなく, 昨日という最近の時期に」の意を表す。] S443

I only kissed your sister last night. (昨夜君の妹さんにキスしただけだ。)
 [▶ この文はあいまいで, 「キスばかりしていた」の意にも, 「ほかの人とはキスしていない」の意にも, 「ほかの時にはキスしていない」の意にもなる。] S443

please

▶ 人にもものをあげるとき please (どうぞ) は用いない。Here you are. を用いる。 S477

possibility

There is a possibility of his going to

Denmark. (彼にはデンマークへ行く可能性がある。)

[▶ *He has a possibility to go to Denmark. の形は用いられない。] S481

presently

▶ 「あとで」の意で用いることが多い。
 “May I have an icecream, Mom?”
 “Presently, dear.” 「ママ, アイスクリームちょうだい」「あとでね。」 S499

prison

He is in prison.
 [▶ 囚人として。He is in the prison. は訪問者としての意。] S70

question

The police questioned me about where I had been. (警察はどこに私がいたのか尋問した。)
 [▶ この about は省略できない。] S490

quite

quite better ((病気から回復し) すっかりよくなって)
 [▶ quite が比較級を修飾できるのはこの表現においてだけである。] S108

rate

at any rate
 ▶ これまで述べてきたことはむしろ, どうでもよく, これから述べるのが大事であるということ合図する表現。 S172

really

▶ 文修飾副詞。「どうも, なんだけどね」の意。文頭または文末に置かれ, 批判・提案などをためらいがちに和らげる働きをする。I don't think I agree with you, really. 「どうも君とは意見が違うようだな。」 S521
 I really don't like her. (彼女なんか大嫌いだ。)
 [▶ I don't really like her. だと「彼女はどうも好きでない」, 「彼女はどうってことないよ」の意となる。] S521

regarding

▶ 談話の頭にいきなり用いることができる。

これに対して as regards は話題を変えるときに用いられる. S172

remember

I shall always remember meeting you for the first time. (はじめてお会いしたときのことを決して忘れないでしょう.)

[▶ meeting は remember の時より前に起きている.] S339

Remember to go to the post-office, won't you? (忘れずに郵便局に寄ってね.)

[▶ to go は remember の時より後に生ずる.] S339

road

▶ road と street : street というのは、両側に家並がならんでいる road のことである。したがって、田舎道について street は用いられない。なお、Oxford Street のような場合は、Oxford のほうに重点があり、Willow Road のような場合は、Road のほうに重点がある。 S539

rob

I've been robbed. (私はひったくりにあいました.)

[▶ rob の目的語は人または場所であるのに対し、steal の目的語は持ち去られるものである。My dog was been stolen. 「私の犬が盗まれた。」] S540

run

His car ran into the wall. (彼の車は、へいに衝突した.)

[▶ ran against とはいわない.] S485

say

I say !

▶ 《英》. 相手の決意を引くため、会話の中へ急に割り込んでくるときに用いられる.

S172

seven

He is seven. (彼は7才だ.)

[▶ We are seven. は場面によっては、「我々は7人(組)だ」の意ともなりうる。(そこにいる人を指して)「我々は7人(だけ)い

る」というような場合には、There are only seven of us here today. 「今日ここにいるのは7人だけです」のような形を用いる.]

S436

share

He shared his property between his wife, his daughter, and his sister. (彼はその財産を妻と娘と妹とで共有していた.)

[▶ あとに数個の単数名詞が続く場合、前置詞は between をとる.] S50

shut

▶ 「閉じる」。「閉じられたドア」。「閉じた目」というとき、* a shut door, * with shut eyes を用いることはできない。a closed door, with closed eyes を用いる。 S139

sick

She is sick. (彼女は病気だ.)

[▶ She is being sick. は「彼女はもどしている」の意.] S96

I feel sick. (私はむねのあたりがむかむかする.)

[▶ 《英》では「はき気がする、気分が悪い」の意.] S312

sir

Dear Sir(s) (拝啓)

[▶ 商業文を Dear Sir(s) で始めたら、結びは Yours faithfully. 「敬具」が普通.]

S361

so

It was so warm a day that we decided to go to the sea. (とても暖かい日だったので海に行くことに決めた.)

[▶ この形の構文は不定冠詞がないと用いることができない。* They are so stranger people.] S18

"It's raining." "So it is." (「雨が降っていますねえ」「本当だ」)

[▶ 同意と驚きとを同時に示すのに用いられる.] S557

"Mummy, I've broken my train." "I told you so. You shouldn't have tried to

ride on it.”（「ママ、車が壊れちゃったの」「だから言ったでしょう。乗ったりすれば壊れるって。それに乗ろうとしたりしちゃだめだって」）

▶ そんなことすればどんなことになるか言ったのに、言うことを聞かないから、こんなことになるのよ、の含意。] S559

“Pam is getting married.” “Who said so ?”（「パムは結婚するよ」「だれがそんなこと言ったの」）

▶ so は「話の出所が分からなければ信じようがないね」という含み。 Who said that ? は単に、情報の出所を求めるだけのもの。] S559

some

Some people like the sea. Others like the mountains.（海が好きな人々もいれば、山の好きな人々もいる。）

▶ others, all, enough などの対比を含む some は強形 [sʌm] で発音される。] S563

somebody

Somebody borrowed my coat yesterday, didn't they ?（昨日だれかぼくのコート借りていったね。）

▶ somebody を受ける代名詞が they である点に注意。] S515

someone

Someone left their umbrella behind yesterday. Would they please collect it from the office ?（昨日だれか傘を忘れていった。忘れた人は事務所に取りに来てください。）

▶ someone を受ける代名詞が they である点に注意。] S432

squar

ten feet squar（一辺が10フィートの正方）

▶ ten squar feet は10平方フィートすなわち、1×10でもよい。] S17

start

I'm starting to learn Spanish.（スペイン語を始めようと思ってるんだ。）

▶ *I'm starting learning Spanish. のよ

うに、-ing が進行形に続く形は避けられる。] S103

stomachache

▶ 可算・不可算両様に用いられる。 S6

suppose

I suppose

▶ 肯定の答えを期待しながら、ものを丁寧に尋ねるときに用いられる。 S172

surely

Surely he is a plain-clothes policeman ?（まさか私服の警官じゃないでしょうね。）

▶ 「信じがたいことだが」の含意。 He is certainly a plain-clothes policeman. は話し手が自分の知識に基づき確信をもっている言い方。] S587

surprise

I shouldn't be surprised if they didn't get married soon.（彼らがじきに結婚したって別に不思議はないわ。）

▶ if they didn't get married は、if they got married と同義。確かでないことを述べる主節のあとでは、このような否定形が肯定の意味で用いられることがある。] S182

terrible

a terrible restaurant（ひどいレストラン）

▶ a terrific restaurant は「すばらしいレストラン」の意。] S92

thank

Thank Good it's Friday.（とうとう金曜日だ。）

▶ *Thanks God it's Friday. というのは誤り。thanks は名詞で、目的語をとることはできない。] S477

the

▶ the + 形容詞が複数名詞を表す主要なもの： the blind, the deaf, the sick, the mentally ill, the handicapped, the poor, the unemployed, the old, the dead, the rich, cf. *the happy. S14

too

She is too kind a girl to refuse.（彼女は

とても心のやさしい人だから、断るなんてしないでしょう。)

[▶この形の構文は不定冠詞がないと用いることができない。 *They are too kind girls to refuse.] S18

toothache

I have toothache. (私は歯が痛い。)

[▶toothache は headache と異なり、不可算名詞。I've had toothache three times this week. (米)では、I have a toothache. の形が、一時的な痛みについて用いられる。] S6

travel

▶travel は不可算名詞であるから1回の旅行について *I hope you had a good travel. ということはできない。代わりに I hope you had a good journey. などの形を用いる。 S609

try

try and

Try and get some unsalted butter. (無塩バターを少し手に入れてきてくれ。)

[▶try が tries, tried, trying などの形になると用いられない。 *He tried and got some butter.] S52

understandable

It's an understandable mistake. I could have made it myself. (それは無理もない間違いだ。私自身同じ間違いをしたかもしれない。)

[▶understandable は、主として、人の行為に関し、それが共感できる無理もない理由をもっていることを述べるのに用いられる。] S150

us

Give us a kiss, love. (ねえ、私にキスして。)

[▶くだけた会話では、me の代わりに us を用いることがある。] S474

wait

wait and see

Let's wait and see. (ちょっと様子を見ることにしよう。)

[▶wait and see 以外の形では、用いられない。 *He waited and saw. *Let's wait to see.] S52

well

as well

John teaches skiing as well. (ジョンはスキーも教えている。)

[▶この文は3とおりの解釈が可能。Johnに強勢が置かれると、「ほかにもスキーを教えている人がいるが、ジョンも」の意となり、skiing に強勢が置かれると、「ほかにも教えていることがあるが、スキーも」の意となり、teaches に強勢が置かれると、「ほかのこともしているが、スキーを教えることもしている」の意となる。] S45

as well as

She sings as well as playing the piano. (彼女はピアノも弾くが歌もうたう。)

[▶She sings as well as she plays. は「芝居と同じぐらい歌のほうも上手だ」の意となる。] S77

whom

The small man in the raincoat, whom nobody recognized, turned out to be Olivia's first husband. (そのレインコートの小男には、だれも気づかずにいたが、オリビアの最初の夫であることが、あとで分かった。)

[▶非制限的關係詞節では whom もよく用いられる。] S528

will

Don't forget, will you? (忘れないでね。)

[▶否定命令のあとにくる付加疑問は、will you? のみである。] S515

Give me a hand, will you? (ちょっと手をかして。)

[▶命令文に添えられた will you? は、相手に何かをするようにと指示するとき用い

られる.] 515
 Sit down, won't you ? (どうぞお掛けくだ
 さい.)

[▶ 命令文に添えられた won't you ? は、
 勧誘を示す.] S515

with

He was killed with a heavy stone. (彼は
 重い石で殺された.)

[▶ この場合、石は殺人の道具. He was
 killed by a heavy stone. は落石などによ
 る場合を指す.] S124

worry

I'm worried about where she is. (彼女が
 どこにいるのか気がかりだ.)

[▶ この about は省略できない.] S490

would

Open a window, would you ? (窓をどこ
 か開けて.)

[▶ 命令文に添えられた would you ? は、
 人に何かするように依頼するときに用いられ
 る.] S515

write

Write me a letter explaining what
 happened, will you ? (何が起きたのか説
 明するお手紙をください.)

[▶ 直接目的語がない場合には to を用いる
 のが普通. Write to me when you get back.
 「帰ったら手紙をください」. ただし略式 (特
 に《米》) では to の落ちることもある.
 Write me when you get back.] S638

yet

Have you met Prof. Hawkins yet ? (ホー
 キンズ教授にもうお会いになりましたか.)

[▶ 単にイエスかノーか中立的な情報を求め
 ている. Have you met Prof. Hawkins
 already ? 「もうホーキンズ教授にお会いに
 なったでしょうね」は肯定の答えが期待され
 ている言い方となる.] S579

youth

The youth of today don't know what
 they want. (今日の青年は何が欲しいのか

自分でも分からない.)

[▶ a youth 「青年」は単数扱いである.]

S429